



藤花だより

令和5年度3月号
令和6年2月29日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyamishi-j.saitama-city.ed.jp>

「一年の終わりに」

～同時代に生きていることに感謝し、共に生きることを楽しむ～

校長 森角 由希子

私は、通勤途中で道に倒れている人を発見し、119番通報をした経験があります。オペレーターの方が、会話の誘導をしてくださったお陰で、緊張しながらも落ち着いて対応することができました。また、その場に通りかかった複数の方が、倒れている人に一緒に声を掛けてくれたり人の誘導をしてくれたりしたことも、心の支えになりました。

不定期で放送される「エマージェンシーコール」という番組（NHK）があります。この番組は、「24時間365日、この社会には必ずあなたを助けてくれる人がいる」ということを感じ取ってもらえたらというメッセージが込められています。思わぬ事件や事故、ケガや病に見舞われたとき、24時間365日、どんな時も応答してくれる緊急通報の指令室にカメラが密着し、緊急通報を受けるオペレーターと、通報者の会話だけで、日本の今を描くノンフィクション番組です。指令室に、「歯が痛くて運転ができない」「税金の使い道はどうなってるんだ」等、緊急とは考えにくい通報が入る場面を見ると、救急車の有料化がある市で始まるということもうなずけます。また、あるオペレーターは、東日本大震災のときは現場で救助に当たっていて、亡くなってしまった人に、何もしてあげられなかったとの思いが胸に残り、その震災の経験から、「みえないSOS」に気づける人でいたいと決意した言葉が印象に残ります。そのような中、「死にたい」とだけつぶやく女性からの通報が入り、通報者と指令室のオペレーターとの緊迫した状況の中で、会話が続きます。別のオペレーターもその会話を共有し、一刻も早い場所の特定と、命を救うことに必死です。

私は、この番組を見て、一つの命について、正面から向き合うことは、怖くて勇気のいることだと改めて思いました。その一方で、いかなる厳しい環境におかれても、冷静に、責任をもって命と向き合い業務を果たしているオペレーターの姿に、ただただ尊敬の念が堪えません。

皆さんは、この世に生を受け、愛情を注がれ育ってきました。家族に育てられ、支えられています。これまでに家族以外のいろいろな人との出会いや応援がありました。生きるということは、命を与えてくださった親や生きることを助けてくださっている方々に感謝し、その恩に報いることです。今、一緒に学ぶ仲間も、かけがえのない存在としてこの世に生を受けました。存在していることに価値があり、それぞれの人生を楽しみ、幸福に向かって生きることが出来ます。そんな仲間ですから、お互いの存在を大切に、考え方を尊重し、違いを認め合いながら生活して行ってほしいのです。私も皆さんと同時代に生きていることに感謝し、共に生きることを楽しみに、今後も日々を過ごしていきたいと思えます。

さて、3年生は3月15日で卒業です。今は、三年間の締めくくりの時期ですね。保護者の皆様には、1・2年生には、この一年間に頑張ってきたこと、成長が見られる点などを、認めてあげること、3年生は三年間を振り返り、その努力の積み重ねや成長が、新しい進路決定につながったことに自信をもつことで、次年度が意欲をもってスタートできるよう励ましていただければと思います。保護者・地域の皆様には、本校の教育活動への御支援・御協力を賜りありがとうございます。生徒・職員に、この一年間多くの励ましをくださいましたことに深く感謝申し上げますとともに、次年度も変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

